



Q. 膵癌の早期発見は難しい というのは本当ですか？

回答: 市立貝塚病院

消化器内科医長 木村 晋也 医師



A、本当です。膵癌の患者さんは、最近、急速に増えています。

膵癌の症状としては、お腹や背中の重苦しさや体重減少、黄疸等があります。お腹の重苦しさや体重減少は他の病気でも起こり得ます。また、膵癌の多くは初期では無症状です。胃癌や大腸癌も、初期の段階では膵癌と同様に無症状のことが多いですが、検診で内視鏡検査を受けた際に偶発的に発見されることがあります。しかし、膵癌は腹部の背側に存在しており、小さな膵癌の場合は、超音波検査でも見つけることが困難な場合が多く、早期

発見には造影剤を用いたCT検査などを受ける必要があります。

年齢別にみた膵癌の罹患率は、60歳ごろから増加し、高齢になるほど高くなります。死亡率は男性の方が高く、女性の約1・6倍です。わが国では三万人以上の方が膵癌で亡くなっています。また、膵癌の特徴として以下のものがあげられます。

- 1) 膵臓やその周囲の組織に浸み込むように発育する(これを浸潤性発育といいます)。
- 2) リンパ節転移を起こしやすい。
- 3) 肝転移を起こしやすい。
- 4) 早期の発見が難しい。

5) 治療後の再発率が高い。

このように、膵癌は発見された時点ですでに進行していることも多く、できるだけ早い段階で発見して治療を行うことが大事です。糖尿病が進行した原因が、膵癌だったということもあるので、何か気になる症状があれば、早めに病院を受診するようにしてください。

問 Tel 072・42
2・58605

市立貝塚病院
(貝塚市堀3-10-20)
<http://www.hosp.kaizuka.osaka.jp/>